

先輩に続け



なにごうとも楽しむほうで自信にー!

和歌山工業高等専門学校物質工学科准教授 西本真琴 (にしもとまこと)



授業の様子

現在の仕事に就いて5年が終わろうとしています。この仕事に就いた頃は、やっと就くことのできた仕事で慣れることに必死な日々でしたが、最近は色々振り返る時間ができ、本当にあつという間に5年が過ぎてしまったなと思うことが多くなりました。

私は、2010年3月に先端技術科学教育部環境創生工学専攻を修了し、2011年4月から現在の和歌山工業高等専門学校の助教として、教育・研究に携わることになりました。「高等専門学校」、通称「高専」は全国に51校

55キャンパス(国立高専)があり、中学を卒業したばかりの15歳から20歳の本科学生と、本科を卒業し、専攻科に通う22歳までの幅広い年齢の学生がいます。私が所属している和歌山高専では、約850名の学生が在籍しており、在籍している学生のうち約590名がキャンパス内にある学寮で生活しています。

学生のみなさんへ

高専は、大学と同じ高等教育機関ですが、各教員がそれぞれの研究室を持っている、と言う点で、大学と異なります。和歌山高専に助教で赴任した時から、私も

自分の研究室を持ち、現在6名の卒業研究生・特別研究生を指導しつつ、一緒に研究に励んでいます。私の仕事は実験・研究指導の他にも、授業や担任、寮の運営といったことにも携わり、忙しく動き回る日々を過ごしています。そのため、大学にいた頃ほど研究へ時間をかけることもできず、また学生も一週間の授業時間が多いため研究時間が少なく、成果は以前に比べると亀のようなスピードでしかできません。ですが、今年、今の職場へきて立ち上げた研究で、その成果が日の目を見ることができるところまでできました。ここへきて、やっと、お世話になった先生方へ一人前までは行かずとも、なんとか研究者としてやっていくことができるという自信を持って言うことができそうです。



研究室内の様子



研究室メンバー

コミュニケーションで世界が広がる

総合科学部 人間文化学科 4年 川西 沙也加 (かわにし さやか)



川西さんは右



2014年8月末から2015年4月末までの8ヶ月間、カナダのビショップス大学に交換留学生として留学させていただきました。ビショップス大学は、ケベック州最大の都市である、モントリオールから車で二時間ほどの都市、シェルブルックにあります。ケベック州はフランス語圏であるため、目に入るもの、聞こえてくる

ものは全てフランス語ですが、ビショップス大学では英語が用いられているため、カナダ国内だけでなく世界中から学生が集まっています。また、小さな大学で学生数も少ないことから、学生同士の距離も先生方との距離も近く、アットホームな雰囲気であることが特徴です。

そんなビショップス大学で8ヶ月間過ごしたわけですが、留学当初は全くといっていいほどコミュニケーションがとれませんでした。理解しようとして根気強く聞いてくれる人もいますが、「何が言いたいのかわからない」と一蹴されることも多く、落ち込む毎日でした。また、私はESLという英語を第二言語とする学生向けの講義を中心に受講していたのですが、話すことを第一に求められ、大量のプレゼンやディスカッションをこなすことはとても大変でした。しかし、これらの課題をこなしたり、友達と積極的に会話をする心がけるうちに、気付けば上手くコミュニケーションをとれるようになりました。留学を通して、英語をもっと身近に感じられるようになりました。

